

アレルギー歴のある薬剤の変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、入院時にアレルギー・副作用歴を確認することで、アレルギー・副作用の発現回避に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶歯性嚢胞の摘出術施行目的にて入院した患者

【注射薬】

セフトリアキソン Na 静注用 1g「テバ」 1日1回 1回1g



Hさん

Hさんは今まで、お薬を使って、アレルギーが出たり、体調が悪くなったりしたご経験はないですか？



薬剤師



Hさん

そういえば、昔、フロモックスって抗生剤を飲んだ後に、陰部が痒くなることがあります。サワシリンって抗生剤は大丈夫だったんですけどね。

術後の感染予防にセフトリアキソンが処方されていたはず。セフトリアキソンはフロモックスと同じセフェム系の抗生物質だし、避けた方がいいかもしれない。



手術予定のHさんですが、過去にセフェム系の抗生物質で搔痒感が出たことがあるそうです。アレルギーの可能性もありますし、術後のセフトリアキソンの変更をご検討いただけませんか。サワシリンは問題なく使用したことがあるそうなので、同じペニシリン系のスルバシリンはどうでしょう。



医師

なるほど、そうなのですね。
術後の抗生剤はスルバシリンに変更します。

術後の抗生物質はスルバシリンに変更された。

アレルギー・副作用歴を確認することで、アレルギー・副作用の発現回避に貢献できた。